

(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)

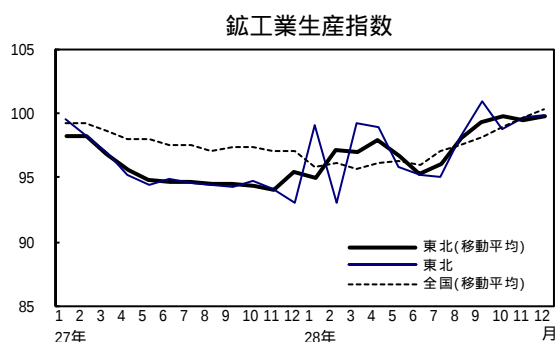
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年11月)	今回(平成29年2月)	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10～12月期は、電子部品・デバイス、スマートフォン、自動車用のコネクタ等が増加した。はん用・生産用・業務用機械は、プレス用金型等が前期の反動で減少した。食料品・たばこは、清涼飲料水等が増加した。情報通信機械は、カーナビゲーションシステム等が減少した。輸送機械は、機関部品や自動車用エンジンで増加した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

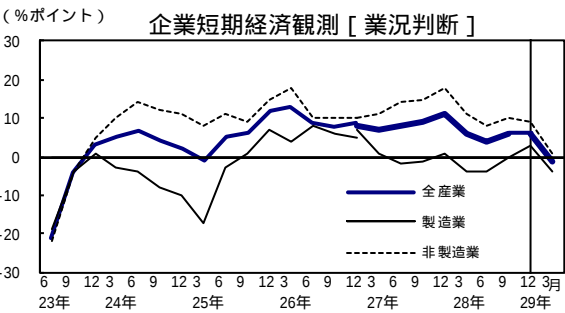
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	16.9	2.9	7.2	1.0	1.0	6.5
はん用・生産用・業務用機械	14.7	11.2	▲2.6	▲7.3	4.2	▲10.3
食料品・たばこ	10.6	▲2.7	0.3	▲2.1	2.4	0.3
情報通信機械	9.2	▲5.1	▲10.7	▲9.5	0.7	▲7.7
輸送機械	8.3	▲5.1	8.0	3.7	▲1.5	10.0
鉱工業	100.0	1.4	1.4	▲2.2	1.0	0.1

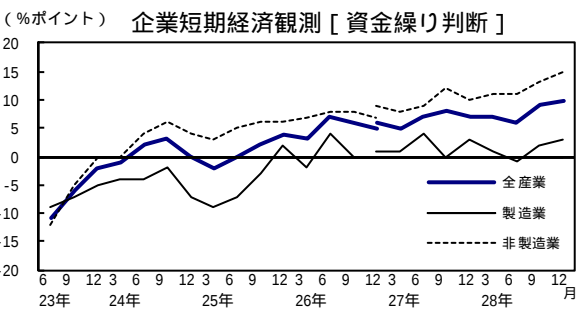
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10～12月期、12月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

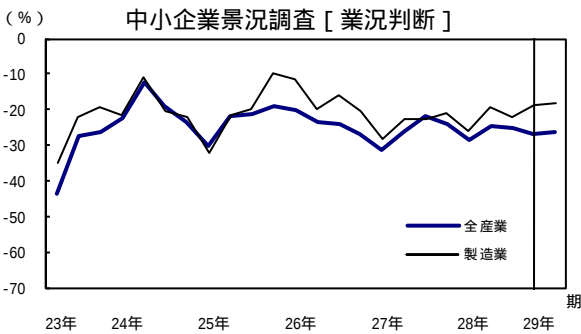
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

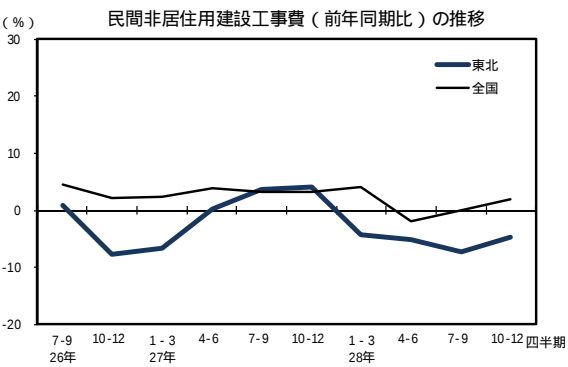


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「直売所の売上は前年より増加している。しかし、燃料などの資材費が上昇しているため、全体的には横ばいである(農林水産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度見通
全産業	▲10.5	15.7(2.5)
製造業	▲11.1	29.8(2.8)
非製造業	▲10.0	1.0(2.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比0.6%増、11月は同0.9%減、12月は同1.3%増となった。

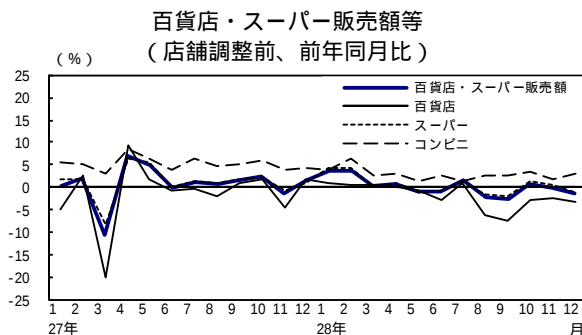
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、コートなど防寒着がふるわず衣料品は不調なものの、化粧品が好調で宝飾品などの催事にも動きがみられ、前年を上回った。11月は、10月と同様にジャケットやセーターがふるわず衣料品は不調なものの、化粧品が好調で前年を上回った。12月は、化粧品は好調なものの、コートやセーターなどの衣料品、生鮮や総菜などの飲食料品等がふるわなかったことから、前年を下回った。

スーパーは、衣料品が前年を下回ったものの、飲食料品は前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[家計動向関連（現状）]

「例年の1月と比べて来客数の動きがかなり鈍い。同業者も同じ状況の様子であり、市場関係もかなり売上が悪いように見受けられる。そのため、3か月前と比べて景気は悪くなっている（一般レストラン）」など「悪くなっている」とする回答が増加した。

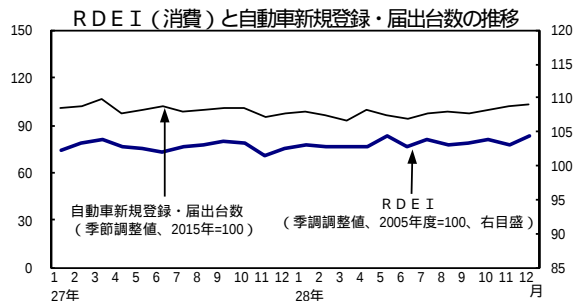


	28年10-12月	28年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	0.4	0.6	▲0.9	1.3
百貨店・スーパー(*2)	▲0.3	0.8	0.1	▲1.4
百貨店(*2)	▲2.9	▲2.9	▲2.4	▲3.2
スーパー(*2)	0.3	1.6	0.7	▲1.0
コンビニ(*2)	2.6	3.3	1.7	2.9
乗用車(*3)	4.4	▲1.6	8.9	6.4
(季節調整値)(*3)	3.7	2.1	2.1	1.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

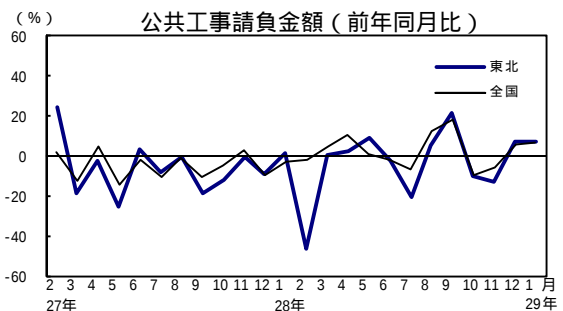
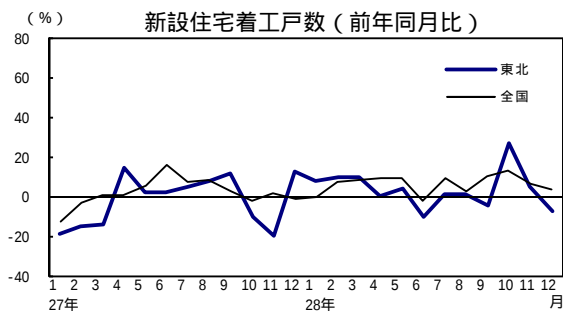
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

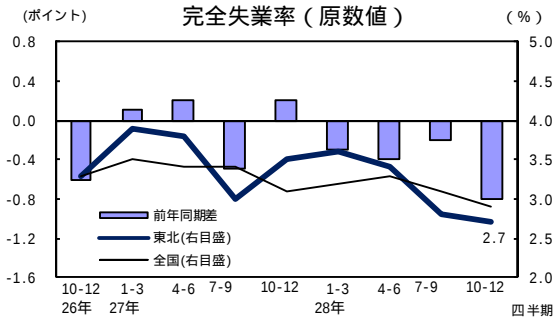
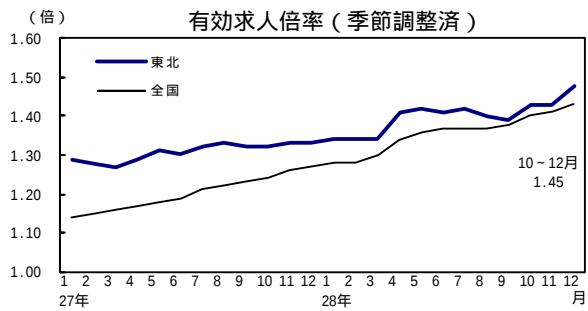
分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

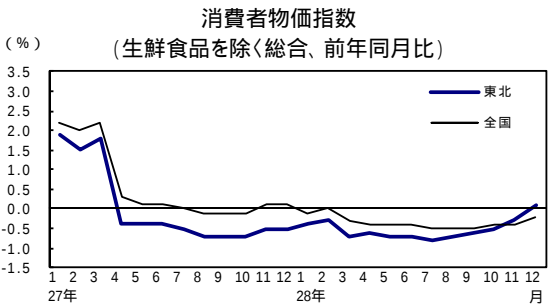


景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[雇用関連（現状）]
「機械系メーカーを中心に、求人数が伸びている。増産や東北への事業移管、新部門立ち上げに伴うというケースが多いため、今後も好況が続くことが見込まれる（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	29年1月
倒産件数	87	92	79	90	27
(前年比)	▲5.4	10.8	23.4	11.1	12.5
負債総額	179	201	181	174	77
(前年比)	▲11.2	50.4	17.6	▲34.2	174.7



- 景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・暖房用の燃料の販売量は暖冬だった前年を上回っているが、販売価格の転嫁が思うように進まないため、収益面ではいまだに苦しい状況である。寒波が来ているが、あまり状況は改善されていない（その他専門店〔ガソリンスタンド〕）。
<先行き>
・ここ最近ヒット商品が出ていないが、故障品の買換え需要は根強く、単価も比較的安定している。そのため、この先の景気は大きく変動することはない、前年並みで推移していくとみている（家電量販店）。

